

氏名	林 裕 治		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 1911 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和 63 年 6 月 30 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	PSK併用による子宮頸癌放射線照射効果増強作用について —特に落射型蛍光顕微測光法による核DNA変化の解析—		
論 文 審 査 委 員	教授 青野 要	教授 折田薫三	教授 木村郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

子宮頸癌放射線療法例34例を対象として、PSK併用の有無による照射効果の違いを(1)落射型蛍光顕微測光法を用いた核DNA量の測定によるcell kinetics の経時的变化及び(2)大星・下里分類による病理組織像を主体として判定した臨床的照射効果の変化の両面から検討し、以下の結果を得た。① 30Gy照射時の照射効果良好例はPSK非投与群10/13 (77%) PSK投与群19/21 (90%)であった。② 照射効果良好例29例の検討では、投与群で早期により良好な照射効果がもたらされた。③ 投与群では、巨核細胞の出現が少なく、腫瘍の融解壊死の傾向が早期にもたらされた。④ cell kineticsの面では、投与群で非投与群に比し、Over 4 C Cell (hypertetraploid cell) populationの増加が14Gy 以後鈍り20Gyの時点では有意に低率であった。

以上より、放射線にPSKを併用することにより、腫瘍の radiosensitivity が高まり、比較的少ない線量の段階から癌細胞はlethalな damageを受ける結果、Endomitosisによる巨核細胞つまり Over 4 C Cell の形成が減少した可能性が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は婦人科領域における子宮の治療において、PSKを併用することによる放射線照射効果増強について研究を行ったものであるが、従来の根治あるいはそれに近い放射線量を照射した場合の効果判定と異なり、14Gyや20Gyといった少線量での効果判定についてCell cycle上より、その照射効果を判定しており、放射線治療上重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。